

巨大カボチャ「出張」から戻る

2年3カ月ぶり 草間彌生さんの作品



クリニックの屋上に戻ったカボチャのオブジェ

秋田市外旭川の「外旭川サテライトクリニック」の目印となっていた巨大なカボチャのオブジェが、2年3カ月ぶりに「出張」から戻ってきた。久々のシンポルの復帰に、職員や患者も喜びの声を上げている。

オブジェは前衛芸術家の草間彌生さんが制作し、2008年8月の開院に合わせ、せて屋上に設置された。高さ約4・2メートル、直径約5メートル、重さ800キロの繊維強化プラスチック製で、鮮やかなオレンジ色のカボチャに黒の水玉模様が映える。

16年12月に取り外され、東京の国立新美術館での個展「草間彌生 わが永遠の魂」（朝日新聞社など主催）や、京都市の美術館で先月末まで展示されていた。「患者さんからは『どこさいったんだ』といったお声を頂いていた」と伊東威事務長（40）。その存在感ゆえ、取り外した後はクリニックに気付かず、通り過ぎてしまう人もいたという。

しばらくはカボチャを貸し出す予定はない。伊東さんは「カボチャパワーをもらって、いっそう良いサービスを提供したい」と話す。

同クリニックでは毎日午後8時ごろまでライトアップも実施する。（神野勇人）